



平成22年11月5日

各 位

東京都港区海岸三丁目3番8号  
安田倉庫株式会社  
代表者名 取締役社長 宮本 憲史  
(コード番号:9324 東証第1部)  
問合せ先 業務部長 鶴飼 巖  
(TEL : 03 - 3452 - 7316)

### 平成23年3月期第2四半期累計期間の業績予想との差異及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成22年8月5日に公表いたしました平成23年3月期第2四半期累計期間の業績予想と本日発表の実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成22年8月5日に公表いたしました平成23年3月期通期の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成23年3月期第2四半期累計期間の業績予想数値との差異（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

##### (1) 連結業績

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	
前回発表予想 (A)	16,000	1,100	1,000	550	18円12銭
実績 (B)	16,658	1,195	1,119	279	9円22銭
増減額 (B-A)	658	95	119	△ 270	—
増減率 (%)	4.1	8.7	11.9	△ 49.1	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	16,105	1,332	1,227	719	23円70銭

##### (2) 個別業績

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	
前回発表予想 (A)	12,550	700	950	650	21円42銭
実績 (B)	12,888	630	883	281	9円26銭
増減額 (B-A)	338	△ 69	△ 66	△ 368	—
増減率 (%)	2.7	△ 10.0	△ 7.0	△ 56.6	—

##### (3) 業績予想との差異の理由

当第2四半期連結累計期間において、営業収益、営業利益及び経常利益は概ね計画通りに推移いたしました。投資有価証券評価損285百万円及び資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う影響額98百万円をそれぞれ特別損失に計上いたしましたことから、四半期純利益は実績値が予想値を大きく下回りました。

2. 平成23年3月期通期業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(1) 連結業績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	
前回発表予想（A）	33,000	2,650	2,500	1,450	47円78銭
今回発表予想（B）	33,000	2,300	2,200	900	29円66銭
増減額（B－A）	－	△ 350	△ 300	△ 550	－
増減率（％）	－	△ 13.2	△ 12.0	△ 37.9	－
（ご参考）前期実績 （平成22年3月期）	32,432	2,640	2,459	1,428	47円07銭

(2) 個別業績

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	
前回発表予想（A）	25,700	1,600	1,850	1,200	39円54銭
今回発表予想（B）	25,700	1,200	1,450	600	19円77銭
増減額（B－A）	－	△ 400	△ 400	△ 600	－
増減率（％）	－	△ 25.0	△ 21.6	△ 50.0	－
（ご参考）前期実績 （平成22年3月期）	25,503	1,668	1,862	1,254	41円34銭

(3) 修正の理由

今後の事業環境は、物流事業については顧客企業の在庫圧縮が進み、また不動産事業についてはオフィス需要が冷え込むなど、厳しい基調で推移するものと見込まれます。

このような前提の下に当社第2四半期連結累計期間の実績及び今後の見通しを勘案した結果、営業収益については国際貨物取扱料の好調等により当初計画通りに推移することが見込まれるものの、営業利益、経常利益及び当期純利益については保管残高の伸び悩みやオフィス空室率の高止まりにより当初想定した保管料及び不動産賃貸料の拡大が困難であると見込まれることから、前回予想を下方修正するものであります。

※ 業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上